

平成20年度質の高い大学教育推進プログラム審査結果表【選定】

機 関 名	京都造形芸術大学				
取 組 名 称	頭と手を動かすワークショップ型初年次教育				
取組学部等	芸術学部				
申 請 区 分	教育課程の工夫改善を主とする取組				
整 理 番 号	A11182	申 請 の 形 態	単 独	取 組 期 間	3 年
申請の分類	専門基礎	初年次教育		FD・SD	
キーワード	1 年次生全員、ティーチングマネージャー制によるFD、専門教育への橋渡し、学生と協同したプログラム開発、1 週間の学習への弾み				

<選定理由>

本取組は、意欲、関心、学力等で入学者が多様化する芸術系の大学にあって、学習意欲や動機を鼓舞するための初年次教育として、少人数教育クラス編成、各グループへのティーチングマネージャーの配置、上級生のアイデア活用など、創意性に富み、細部のコンセプトにも意図の行き届いた優れた取組であり、また、学習者の立場に立った教育内容・方法実現のため、学生と協同してプログラムを開発していることなど、学生の主体性を引き出すことも考えられた意欲的な取組である。

しかし、育成すべき4つの力の獲得のアセスメントや学生の成長をいかにして確認するのかの検討が不十分であると思われるので、今後の精力的な努力を期待する。

取組の概要【1 ページ以内】

1 取組の趣旨

本学では「芸術を社会に活かすことのできる人材の育成」を教育目標として掲げている。一方で、高等学校までの学校教育において芸術の時間が極めて限られており、学部の教育の質の維持、向上を図るには、芸術を学ぶために必要な基礎力と社会性を育成することが求められている。

このような状況下で教育目標を達成するには、多様な入学者たちに対して芸術大学の特質を活かした初年次教育を行ない、専門教育を受けるための基盤を形成し、合わせて社会の様々な領域や場面で必要とされる力の基礎を育むことが肝要である。そのため本学では平成19年度から芸術学部全体で初年次教育の開発と実施に取り組んでいる。

2 取組の特色

本取組は「ベーシックワークショップ」（前期月曜日4講時連続開講）と「グループワークショップ」（9月に半月間の集中開講）の2科目からなり、以下の特色を持つ。

- ①本取組の目的を専門教育への橋渡しのための基盤教育と定め、ワークショップ型の教育手法により、芸術の専門教育を受ける基盤形成と芸術を社会に活かすための根源的な学習動機の喚起を促す。
- ②学部1年次生全員を対象とし、全10学科29コースの1年次生約770名が35名×22クラスの中で完全に混ざり合うよう、学科横断型のクラスを編成する。
- ③5～6クラスを1グループとして、各グループにプログラムやクラスの運営、教授法の改善をはかる役割を担うティーチングマネージャーを置くことにより、ティーチングマネージャー制によるFDを日常的・継続的に実施する。
- ④「ベーシックワークショップ」を前期月曜日開講とし、入学直後から全1年次生が週の初めに集ってクラスの仲間や担当教員、上級生のサポーターと顔を合わせるにより1週間の学習への弾みをつけることをめざす。
- ⑤学習者の立場にたった教育内容・方法を実現するため、2年次以上の学生と協同したプログラム開発・運営にあたっていく。

これらの特色により、導入初年度である平成19年度においては、学生の充実度・満足度、単位修得率等、極めて高い水準であった。

3 取組期間3年間の計画

この成果を維持しつつ、今後以下に取り組みさらなる充実、発展をめざす。

- ①「授業自体の評価」「学生の成長の評価」「大学教育全体の中での本取組の評価」の3つの視点から、多面的な評価システムを構築する。
- ②専門教育を担当する教員の中で本取組の担当となる教員の数を増加させ、学部課程全体の基盤教育としての機能をさらに強める。
- ③教育内容・方法の改善に上級生の力を活用する仕組みを充実させ、学生による「初年次教育受講」→「授業サポート」→「プログラム改善・向上への参画」のサイクルを確立することにより、学生の成長を継続的に促す。

4 取組期間終了後の展開

学習動機や目的意識の醸成という点で、初年次教育と入学前教育の目的には共通する部分が多い。そのため、取組期間終了後は本取組をさらに充実させ「入学前から初年次までを対象とするプログラム」へと発展させる計画である。